乳幼児期の教育・保育経験に影響を与える要因の検討

――中学生と母親パネル調査（JLPS-J）データを用いた分析（2）――

東京大学　苫米地なつ帆

1　目的

本報告の目的は，乳幼児期の教育経験や保育経験に影響を与える要因としての家族背景的要因やきょうだいにかんする要因に着目し，それらの影響を明らかにすることである．既存の研究においては，家族背景的要因の影響を統制しても，きょうだい構成要因が教育達成に影響を与えていることが明らかにされている（藤原 2012）．しかしながら，より以前の段階である乳幼児期の教育や保育にかんする経験ときょうだい構成との関連に着目した計量的な研究は，日本においてはほとんどなされていない．そこで本報告では「中学生と母親パネル調査(JLPS-J)」のデータを用いて，前述の要因と乳幼児期の経験との関連を明らかにする．

2　方法

前述のとおり，使用データは 2015 年 10 月から 2016 年 1 月に実施された「中学生と母親パネル調査(JLPS-J)」である．JLPS-J は，中学 3 年生の子どもとその母親を対象母集団とし，住民基本台帳から無作為抽出された世帯に対し協力を依頼し，集められたモニターを対象に郵送調査を行っている（有効回答 1,854 ペア，有効回収率 45.0%）．JLPS-J の母親調査票では，対象者である中学 3 年生の子ども以外の全ての子どもについて，性別や学校歴等が尋ねられている．したがって，JLPS-J データでは同じ家族に属するきょうだい内での違いを検討することが可能である．使用するおもな独立変数は，家族背景的変数（両親の学歴や世帯年収），子どもの数（＝きょうだい数），子どもの出生順位や性別である．従属変数は，幼稚園への通園経験の有無および保育所への通所経験の有無である．

3　結果

分析の結果，以下のことが明らかになった．ひとつは，乳幼児期の教育および保育の経験と親の学歴に関連がみられることである．父親の学歴が高いほど幼稚園に通園しやすく，保育所へは通所しにくい．次に，きょうだい数が多くなると幼稚園への通園を経験しにくい一方で，保育所への通所は経験しやすいということも明らかとなった．さらに，幼稚園への通園経験に対しては，子どもの性別や出生順位も影響を与える傾向がみとめられた．

4　結論

幼稚園への通園および保育所への通所の経験しやすさには，家族背景的要因が影響を与えている．重要なのは，世帯年収や親の学歴等の家族の経済的・文化的な背景だけでなく，きょうだいの有無によって教育・保育の経験に違いがみられる点である．きょうだい数の多寡と家族が教育に資することのできる資源の配分との関連については多くの先行研究が指摘するところであるが，本報告で得られた分析の結果は，そのような関連が乳幼児期の段階から続いていることを示唆するものである．また，個人属性としての性別や出生順位が子育ての方針を定める軸として一定の機能をもちうることについては，家族背景的要因とそれらの関わりを十分に考慮したうえで検討する必要があるといえよう．

文献

藤原翔，2012，「きょうだい構成と地位達成――きょうだいデータに対するマルチレベル分析による検討」『ソシオロジ』57(1)：41-57.

付記　本研究は JSPS 科研費 15H05397 の助成を受けたものです．